



おかずにもう一品！
近くにある卵焼き屋さん、
交流会の御用達です。



神戸市社協が開催する若年性認知症交流会も、平成二十二年十二月の開始から一年が経ちました。月一回、馴染みの顔ぶれに会えることを、また、新しい仲間に出会えることを楽しみに、気づけばあつという間に一年が過ぎました。

も、「同じ釜のメシ」を通じて愛情いっぱいの心とむ場所作りに励みたいと思います。

さて、前回の交流会だよりでも触れましたが、ただ今、会の愛称を検討中です。

交流会の愛称は…



参加者の皆さんに、交流会に参加する時の気持ちを言葉にすると？とお聞きしたところ、「ワクワク、ウキウキ、キラキラ、ルンルン」と、パンダの姿が頭に浮かぶ言葉が沢山並びました。

「アイアイ」、「あいあい」が候補となりました。私の「I」、「愛」の「愛」、出合いの「会い」、参加者が、それぞれに思う、色々な「あい」を大切に集める交流会という気持ちを表しています。若年性認知症交流会「あいあい」、「アイアイ」、「ai ai」…

初詣 (H23.1.21)



2012年1月の交流会では、湊川神社へ初詣に出かけました。手を合わせて拝む後は真剣そのもの、気迫を感じます!! (下)



同じ釜のメシ

ご本人が参加できるプログラムとして始めた調理活動も、おやつ作りから、散歩に持って出かけるおにぎり作りになり、今では昼食作りになりました。時に失敗もありますが、どんな時も参加者の皆さんからは、「みんなで同じ物を食べると美味しい、ありがとう」と言っていた聞いています。

ご主人が入院中で、今はお一人でおられる方がいらした「久しぶりにシチューを食べると美味しかった」という言葉や、お母様の介護をしておられる娘さんからの「久しぶりに手作りの家庭料理、美味しかったです」との言葉には、改めて考えさ

西宮市でも交流会がスタートしました

まだまだ遅れていると言われる若年性認知症の方への支援ですが、各種制度の狭間にあって相談機関が一本化されていない点や、主に高齢者を対象とした介護サービスの利用に馴染まないことが多々ある点等についての問題も徐々に周知されつつあり、国における若年性認知症支援の取り組みも少しずつ進み始めています。地域レベルでも、本人・家族の交流の場が持た



若年性認知症交流会「あいあい」、「アイアイ」、「ai ai」… どうか？？？

れる等、若年性認知症支援の輪が少しずつ広がっています。

私達、神戸市社協が実施する交流会もその一環ですが、平成二十三年十一月、西宮市でも、若年性認知症の方を対象とした交流会がスタートしました。立ち上げの際には、担当のスタッフが神戸市社協の交流会を視察に来られました。

私達も、交流会を始める準備期には、すでに若年性認知症サロンを実施していた老健施設・青い空の郷（北区）の他、若年性認知症支援事業の実施機関をいくつか視察させていただきました。

若年性認知症に特化した交流の場は少なく、遠方から足を運ばれる参加者も多いため、今後、より身近な場所での交流の機会が充実していくよう、支援者同士の連携も深めていきたいと思っています。

認知症、周囲への告知をどう考えますか

一月の交流会・介護者情報交換会では、家族が認知症であるということの周囲への告知について話し合いました。

認知症の症状が徐々に進行していく様子に、ご家族は、自分の身に何か起きたら、認知症の夫は、（妻は、父・母は、）自分で対応できず、どうやって生きていくのだろうか…という大きな不安を抱えておられます。

認知症の夫と暮らす介護者が、私が急に倒れても、夫は、周囲に助けを求め、救急車を呼ぶこともできない、周囲に気づいてもらえないまでの間、夫は自分で食事を摂ることもできない…そのことを考えると胸が苦しくなる、それでも、認知症であることを周囲に伝えることは、夫がかわいそうに思えてできない、と話されました。

情報交換に参加しておられたご家族に、周囲への告知について、お話を聞かせていただきましたところ、同席された十一名のご家族の内、六名の方が、周囲に伝えているとのこと、以下のようなエピソードやご意見を聞かせていただきました。

・認知症だと伝えると、親切に接してくれる人が多く、声かけや気配りをしてもらい有り難い。
・物音のことで階下から苦情があったが、事情を話したら、同様に介護者の立場だと分かり、「気にしない」と言ってもらえた。

・親しい友人にのみ伝えていて、事情を話していない頃は旅行に誘われても断りづらかった。今は、無理に誘われることもなく、こちらの都合に合わせて、ランチにしよう、と出かけやすいように配慮してくれる。
・夫の同級生が帰りは自宅まで送るから大丈夫！と同窓会に誘ってくれた。参加できた夫も嬉しそうだった。

・デイサービス等定期的に通う場所があれば、異変に気づいてもらえる
・全ての人に伝える必要はない、まずは、伝えやすい人にだけでも伝えてみてはどうか
・夫が認知症であると実家の家族に伝えたら、両親がとても私（介護者）のことを心配しており、告知して良かったのだろうか…と感じている
・予め周囲に「暫く姿を見かけなかったらよろしくとお願ひしておく

・生命保険の加入状況や必要な連絡先をまとめ、大切な物の保管場所を別居の家族に伝えておく
・水道、ガス等の使用状況による見守りシステム
の活用も検討してみてもどうか
・自分が倒れないように、自身の健康に気を遣うようになつた

周囲への告知が、介護者自身の安心に繋がるとわかっていても、簡単にはできない個々の事情や葛藤があることが伝わってきます。すぐに解決に繋がる訳ではありませんが、今後交流会では、ご家族同士が本音で話し合える時間を大切にしていきたいと思ひます。

晴れますように

外出を企画すると、なぜか雨ばかり…
二月の動物園、どうか晴れますように…。



楽しみにしていた芋掘り、雨で有馬散策に…でも、有馬も良かったですね。

〈お問い合わせ〉

神戸市社会福祉協議会 福祉事業2課

〒651-0086

神戸市中央区磯上通3丁目1-32

こうべ市民福祉交流センター4階

電話:078(271)-5316 FAX:078(271)-5366

E-mail: zaitaku@with-kobe.or.jp

URL: http://www.with-kobe.or.jp

